

図書館システム更新

平成19年2月、図書館システムが更新されました。このシステム更新により、図書系職員が図書館業務をおこなうための業務システムと、OPACや電子図書館などの利用者サービスシステムが、この2月から4月にかけて、新システムに順次移行していきます。

今回のシステム更新についていくつか特徴を挙げます。

共同調達：教育用コンピュータシステムと共同調達となり、システム連携や相互の機能補完を図るとともに調達コストを削減しました。

図書館業務システム：クライアント/サーバー型のシステムから、Webベースのシステムに移行することにより、システム全体の軽量

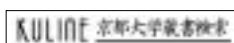
化と機動的な端末運用を可能としました。また、更新を機に、図書館業務で使用するコード体系を大幅に見直し、学内外の他システムとのデータ連携がスムーズに行えることとなりました。

利用者サービスシステム：OPACを中心に、インターフェースや検索エンジンの変更が行われ、より使いやすくより高度な機能を提供します。また、認証サービスが教育用コンピュータシステムと連携することにより、図書館独自のアカウントを別途取得する必要なく、教育用コンピュータシステムの利用者コードによる認証でご利用いただけるようになります。

図書館システムは、一部のシステム関係者がつくるものではありません。職員、利用者、一人一人がつくりあげていくものです。今後も、日常的に、改善・進歩をしていく所存ですので、現場の職員およびご利用の皆様からのご意見、ご指摘、ご要望をお待ちしております

新 OPAC の愛称が決まりました！

【新 OPAC 愛称募集の選考結果】



最優秀賞 KULINE (クライン)

(Kyoto University Libraries Information NEtwork system)



受賞者 松岡正志 様 (法科大学院)

インターネットで提供している図書館サービスが、この4月より、さらに使いやすく、装いも新たに生まれ変わります。

このリニューアルを機に、昨年末、皆様から OPAC (オンライン蔵書検索システム) の愛称を募集し、厳正な選考の結果、「KULINE (クライン)」という呼称を採用させていただくことになりました。響きがよく、「クラインの壺」への連想から京都大学の基本理念に結びつけて命名したという松岡さんの説明に説得力があったのが、選考の主な理由です。

この応募に対しては、学生だけでなく教員や職員の皆様から計102通ものご応募をいただき、新サービスへの関心を寄せていただけたことに、感謝を申し上げます。

去る2007年2月19日(月)に表彰式がおこなわれ、受賞者の松岡さんに表彰状と副賞の図書カード1万円分が渡されました。